

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-61C	15-015	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
A prospective study of alcohol consumption and renal cell carcinoma risk. アルコール摂取量と腎細胞がん発症リスクに関する前向きコホート研究		
<b>執筆者</b>		
Karami S1, Daugherty SE, Purdue MP.		
<b>掲載誌</b>		
Int J Cancer. 2015 Jul 1;137(1):238-42. doi: 10.1002/ijc.29359.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
アルコール摂取量、腎臓がん、前向きコホート研究		25431248
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b>		
アルコールは腎細胞がん (RCC) リスクを低下させるが、性別およびアルコール飲料別検討では一貫した結論が得られていない。性別、アルコール飲料の種類および喫煙状況を考慮し、アルコール摂取量と腎細胞がんの発症リスクとの関連を明らかにする。		
<b>方法：</b>		
PLCO Cancer Screening Trial の 107,998 名 (55~74 歳) を対象とした。腎臓がんの既往者等を除外した。ベースライン時に食事調査、飲酒習慣等に関するアンケート調査を行い、追跡終了時まで毎年質問票および診療記録で RCC 発症の確認を行った。アルコール摂取量は、過去 12 か月の飲酒習慣から、0、<1.75、<9.75、9.75g/日以上の 4 群にカテゴリー化した。比例ハザードモデルにより RCC 発症のハザード比 (HR) および 95%信頼区間 (95% CI) を計算した。		
<b>結果：</b>		
約 11 年間の追跡期間中、408 名が RCC と診断された。RCC 発症 HR (95%CI) は、アルコール摂取量 0g/日を 1 とし、<1.75g/日が 0.98 (0.75-1.29)、<9.75g/日が 0.77 (0.58-1.02)、9.75g/日以上が 0.67 (0.50-0.89) と飲酒量と負の関連を示した。性別、アルコール飲料別でも同様の結果を得た。過去喫煙者と現在喫煙者ではアルコール摂取量と RCC 発症 HR に有意な負の相関を認め、RCC 発症 HR (95%CI) は、アルコール摂取量 0g/日を 1 とすると、<1.75g/日が 0.63 (0.48-0.84)、<9.75g/日が 0.61 (0.42-0.87)、9.75g/日以上が 0.51 (0.36-0.73) と有意に低下した。		
<b>結論：</b>		
性別、アルコール飲料の種類に関わらず、アルコール摂取量は RCC 発症リスクと負の関連を認めた。喫煙経験者においてその関連は顕著であった。		